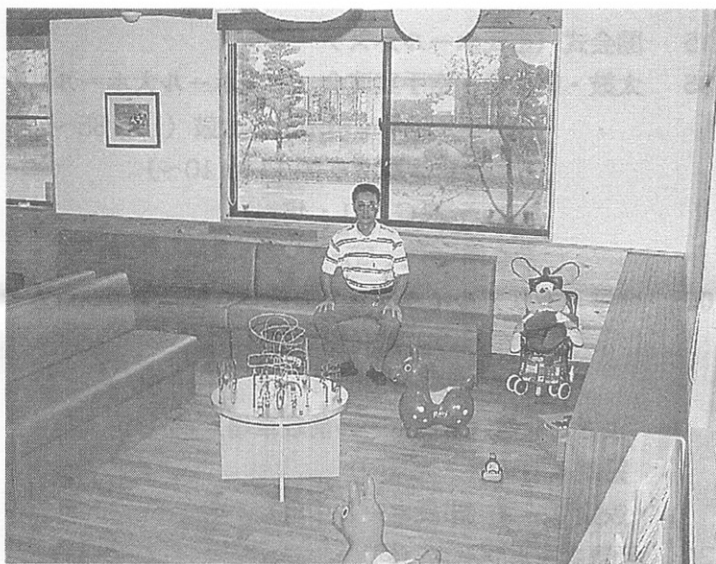


母子が安心できる最高の住環境を

やまて小児科開院

体に有害なものは避け、こだわりの木造建築



ふんだんに木を使った待合室

浅江一丁目一〇一、二、やまて小児科（山手智夫院長）が一日開院した。「体に有害なものは避け、お母さんも幼児も安心して来ていただける最高の住環境を提供した。モデルケースと

して参考にしてほしい」という、こだわりの木造建築が特徴。山手院長は岡山大学医学部卒の医学博士。米国に二回留学し、成長障害（低身長）とアレルギをテーマ

としており、平成十二年に光中央病院に迎えられた。NHKアナウンサーの久保純子さんが推進の言葉を寄せた著書「ぼくの小児科診察室」が小学館スクウェアから出版され、話題を呼んだこともある。

今年八月末、「もっと夢を追いかけて、自分の医療をするには、独立した方が実現しやすい」と光中央病院を退職。出身地である兵庫

県明石市も検討したが、患者のことを考え、光の地で開院することにした。日本臨床環境医学会の会員で、開院にあたっては安心の住環境にこだわった。たまたま、山口県内に二人

いる同学会会員の一人が和田材木店の和田巧さんであることを知り、和田材木店やウィータなどの協力を得て、やまて小児科が完成した。建物は日本建築の寄せ棟

造りで、大屋根をかぶせた構造。シックハウス症候群を防ぐため、新建材を使わず、杉や檜など、ふんだんに木が使われている。床は赤ちゃんがなめても安全な天然素材のワックスがけ、壁は旧来の海草糊を煮た漆喰と素材を厳選している。

造り、大屋根をかぶせた構造。シックハウス症候群を防ぐため、新建材を使わず、杉や檜など、ふんだんに木が使われている。床は赤ちゃんがなめても安全な天然素材のワックスがけ、壁は旧来の海草糊を煮た漆喰と素材を厳選している。

一方、医療機器は超音波カラードップラーやデジタルレントゲンなど最新鋭のものそろえ、入院設備はないものの、「外来でできることは、できるだけやりたい」という。

また、授乳室に活性水素の浄水器を備え、点滴中の赤ちゃんに添い寝ができるよう和室を設けたり、点滴中の幼児が退屈しないようアニメビデオを用意するなど、患者のための細かな心配りが随所に見られる。

また、授乳室に活性水素の浄水器を備え、点滴中の赤ちゃんに添い寝ができるよう和室を設けたり、点滴中の幼児が退屈しないようアニメビデオを用意するなど、患者のための細かな心配りが随所に見られる。

山手院長は「和田材木店やウィータから地元業者のみなさんの協力と知恵の結集により、母子に心地よい住環境を整えることができた。そのお礼を込めて、医療という形でお返ししたい」と話している。

二階には料理教室や講演会などが開ける多目的ホールも。

電話による自動予約システムサービス（☎74・1489）が利用でき、専用駐車場も完備している。場所は国道一八八号線交差点を浅江神社側に入り、JA光支所と道路をはさんだ隣。